

ミカン生育情報

千葉県
平成 26 年 11 月号

平成 26 年 10 月の気象

平均気温は、平年に比べ、第 1 半旬で 0.1℃、第 2 半旬で 1.0℃、第 6 半旬で 1.1℃高く、第 2 半旬は 0.8℃、第 4 半旬は 0.6℃低く、第 5 半旬は同じであった（表 1）。月平均気温は 18.1℃で平年より 0.1℃高かった。

降水量は、平年に比べ第 1、第 3、第 5、第 6 半旬で多く、他の 2 半旬は少なかった。6 日と 13 日に台風が上陸・通過した。月合計は 305mm で、平年より 44 mm（17%）多かった。

日照時間は、平年に比べ、第 2、第 4、第 6 半旬で多く、他の半旬は少なかった。月合計は 141 時間で平年より 4 時間（約 3%）多かった。

表 1 平成 26 年 10 月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	平均気温 °C		降水量 mm		日照時間 hr	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	20.6	20.5	104	43	10	20
2	19.9	18.9	51	72	22	20
3	18.0	18.8	42	35	18	21
4	17.1	17.7	5	43	41	22
5	16.6	16.6	57	29	16	24
6	17.0	15.9	47	39	35	29
平均/合計	18.1	18.0	305	261	141	137

早生温州の果実品質

着色程度は、3 調査地とも平年より低く、着色はやや遅れている（表 2）。糖度は平年より三芳地区（以下三芳）はやや低く、千倉地区と暖地園研では高く、平均は 9.7%で平年を上回っている。酸度は、三芳では平年より高いが他の 2 園地は平年より低く、平均 1.09%で平年より 0.02%低かった。甘味比は、三芳では平年より低かったが他の 2 園地は平年より高く、平均 9.0 で平年より 0.2 高かった。果肉歩合は、いずれも平年より高く、平均 82.8%で平年より 1.5%高かった。なお、浮皮は、いずれの園地も発生していない。

表 2 早生温州の果実品質（平成 26 年 10 月 30 日）

調査地	着色程度		糖 度%		酸 度%		甘味比		果肉歩合%	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
三芳地区	6.0	7.1	9.1	9.4	1.18	1.05	7.7	9.4	83.3	80.1
千倉地区	6.8	7.9	10.0	9.8	1.16	1.21	8.6	8.2	81.9	81.5
暖地園研	7.3	7.4	10.1	9.0	0.94	1.09	10.7	8.7	83.1	82.4
平均	6.7	7.5	9.7	9.4	1.09	1.11	9.0	8.8	82.8	81.3

注 1) 平年値は平成 5～25 年の平均値

注 2) 甘味比=糖度/酸度

果実の生育

10月末の果実の生育を3調査地の平均値で見ると(表3)、横径、縦径の平年比は早生温州ではそれぞれ104%、103%といずれも平年を上回り、普通温州ではそれぞれ102%、98%と平年と比べ扁平な形になっている。

川野夏柑ではそれぞれ105%、104%であり、平年を上回っている。

表3 果実の生育(平成26年10月29日、30日)

品種	調査地	横径 (cm)	縦径 (cm)
興津早生	三芳地区	6.4 (97)	5.2 (102)
	千倉地区	6.3 (98)	4.6 (94)
	暖地園研	7.6 (115)	5.7 (112)
大津4号	三芳地区	6.7 (95)	4.7 (94)
	千倉地区	7.3 (100)	4.8 (98)
	暖地園研	8.4 (115)	5.4 (106)
青島温州	三芳地区	6.6 (93)	4.7 (92)
	千倉地区	6.7 (94)	4.5 (90)
	暖地園研	8.2 (115)	5.4 (107)
川野夏柑	暖地園研	9.3 (105)	7.4 (104)
早生温州(平均値)*		6.8 (104)	5.2 (103)
普通温州(平均値)		7.3 (102)	4.9 (98)

注1 ()の数字は平年値(平成6~25年の平均)を100とした比数

注2 早生温州:興津早生3調査地の平均 普通温州:大津4号、青島温州3調査地の平均

11~12月の栽培管理

早生・普通温州の収穫・予措 品質を揃えるため、着色に合わせて収穫する。浮皮は着色後に発生するため、8分着色以上の果実を先に行い、分割採収とする。

収穫時に二度切りする際に、果梗枝はへたぎりぎりの所で切るが、へたに傷を付けないように気を付ける。運搬・選果の際にも果実に傷がつかないように丁寧に取り扱う。

その後、腐敗防止のため、風通しの良いところへ置き、2~3%減量させる予措を行う。

病害虫の防除 ミカンハダニやカイガラムシが多い園では、収穫後にマシン油乳剤を用いて防除する。樹勢の弱い樹や寒害を受けやすい園地では、寒い時期の散布を避ける。また、乾燥が続いている場合は、降雨後に散布を行うと樹勢への影響が小さい。

防除を行う際は、千葉県農作物病害虫雑草防除指針を参考に行う。

《 生育情報の問合せ先 》

千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>